

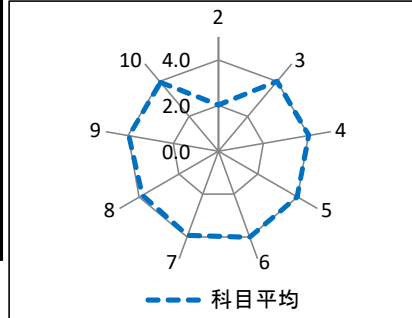
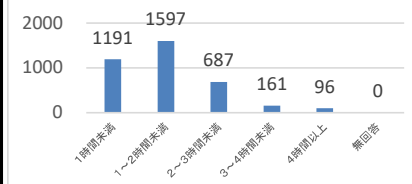
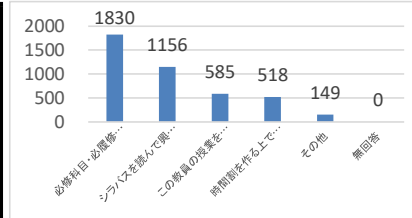
愛知文教大学 2020年度 春期 授業調査アンケート集計結果（全開講科目）

【全200科目】	(2019秋期)	(2019春期)
■アンケート回答者	3732 人	3235人
受講者数	4539 人	3916人
回答率	82.2%	78.8%

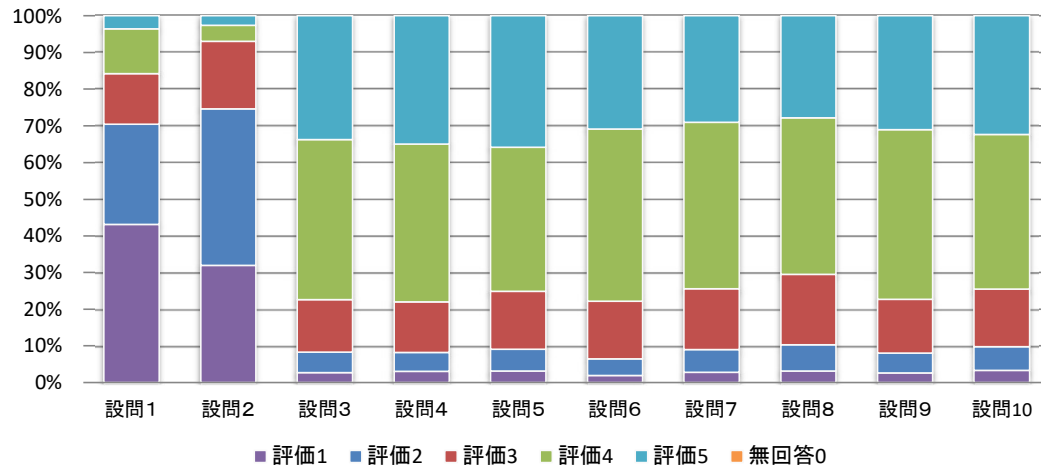
〈補足〉
 1. 評価平均は、評価1×1、評価2×2、評価3×3、評価4×4、評価5×5として計算し、無回答は計算対象からはずしてあります。
 2. 受講者数は、アンケート実施科目の履修登録者数を合計しています。
 3. ゼミなど回答者数が5名以下の科目についても、本集計データに含まれています。

■設問別評価集計表

アンケート設問内容		全体の平均値	評価構成(件数)					無回答
			必修科目・必修科目だったから	シラバスを読んで興味を持ったから	この教員の授業を受けたから	時間割を作る上で好都合だったから	その他	
設問1	あなたが、この授業を履修した理由は何ですか(複数回答可能)		1830	1156	585	518	149	0
		全体の平均値	1時間未満	1~2時間未満	2~3時間未満	3~4時間未満	4時間以上	無回答
設問2	この授業に対する1回分(90分)あたりの事前事後学習(宿題を含む)は、平均してどれくらいですか？	2.0	1191	1597	687	161	96	0
		全体の平均値	評価1 そう思わない	評価2 あまりそう思わない	評価3 どちらともいえない	評価4 そう思う	評価5 大変そう思う	無回答
設問3	担当教員は、この授業の学習目的や必要性を十分に説明してくれましたか。	4.0	104	207	534	1627	1260	0
設問4	担当教員は、この授業が理解しやすいように、教え方(教材や実演など)の工夫をしていましたか。	4.0	114	193	516	1606	1303	0
設問5	担当教員は、学生からの質問やレポートなどの提出物に対して、よく対応(フィードバック)してくれましたか。	4.0	120	221	588	1467	1336	0
設問6	担当教員は、この授業をシラバスの計画にそって行いましたか。	4.0	74	168	586	1753	1151	0
設問7	あなたは、この授業を、やる気を持ってまじめに受けることができましたか。	3.9	107	228	618	1695	1084	0
設問8	あなたは、この授業を受けて、その内容に興味を持ち、学修したい気持ちが増えましたか。	3.8	120	265	718	1591	1038	0
設問9	あなたは、この授業を受けて、新しい知識、技術、能力を得る事ができましたか。	4.0	99	201	548	1727	1157	0
設問10	あなたは、この授業に満足しましたか。	3.9	124	242	585	1574	1207	0



設問別評価構成グラフ



全開講科目中
評価3以下の項目

設問2	75%
設問3	8%
設問4	8%
設問5	9%
設問6	6%
設問7	9%
設問8	10%
設問9	8%
設問10	10%

令和2(2020)年度「春期 授業調査アンケート」 実施方法と結果の分析と考察、総評

- ★ 全開講科目：200 科目
- ★ アンケート期間：令和2年7月16日（木）～7月22日（水）の最終授業日に実施
- ★ アンケート実施方法：本年度は、ポータルサイトを用いた Web 上での実施（匿名式）
- ★ 実施要領：

- ① 授業終了20分程度前に、アンケートへの回答の注意事項を伝達する。

— 説明内容 —

この「授業調査アンケート」は、授業を担当する教員が、授業を改善することを目的としています。あなたが、この授業を通して有意義な学習を行うことができたかどうか、率直な意見を記入してください。集計されたみなさんの意見を基に、担当の教員は授業の改善を行います。また、大学全体のカリキュラムを見直す材料とします。回答内容から、個人が特定されたり、あなたの成績等に影響したりすることは一切ありません。無責任な記述は慎み、授業改善につながるように大学生として真摯に答えてください。

- ② 学生には、以下の手順を示す。

1. ポータルサイトにログインする。
2. 左側の「MENU」の下の「アンケート」を選択する。（これ以降の画面は、教員側には表示されず、教員側からは見ることはできません。）
3. 「アンケート」の下の「授業評価」を選択する。
4. 学生が受講している授業一覧から該当授業を選択する。
5. 質問に回答し、「回答送信」を選択する。（「必須」の項目に回答しないと「回答送信」を選択できません。最後に必ず「回答送信」を選択するように強調してください。）

学生によるアンケートへの回答は、該当授業の担当教員が Zoom 上で立会いのもと、授業時間中に行うことを原則とします。定刻までは Zoom を終了せず、アンケートを行うようにご指導ください。なお、アンケートへの回答は、授業外でも実施可能です。授業時間内に終わらなかった場合は、授業後に継続して回答するようにご指導ください。（このアンケートは匿名式です。）

★ アンケート数等：

項目	受講者数(人)	回答者数(人)	回答率(%)	未回答率(%)
令和2年春期	4,539	3,732	82.2%	17.8
令和元年秋期	3,916	3,235	82.6	17.4

★ 設問3から設問10の回答は、「評価1(そうは思わない)」→ 評価2 → 「評価3(どちらともいえない)」→ 評価4 → 「評価5(大変そう思う)」の昇順である。

(注) 設問3以降のカッコ内数は、昨年度秋期等の数値である。

1. 「設問1 あなたが、この授業を履修した理由は何ですか(複数回答)」

➡ 「必修科目・必履修科目」を履修理由としている学生は1,830人、43.18%である。この結果からみると必修科目・必履修科目を基本にした履修モデルに従って受講していることが確認できた。また、「シラバスを読んで興味を持ったから」と回答した学生は1,156人、27.27%、「この教員の授業を受けたかったから」と回答した学生は585人、13.80%である。40%弱の学生は、シラバスを読んで授業に臨んでいるが、大学の使命・教育目的である「質保証」と「シラバスの活用」がもっと活かされることが望まれる。

2. 「設問2 この授業に対する1回分(90分)あたりの事前事後学習(宿題を含む)は、平均してどれくらいですか？」

➡ 学生が授業に臨むにあたり事前事後の学習状況は、平均2.0時間であった(昨年度秋期と比較して0.1時間増えている)。しかし、今期30%割弱の学生は1時間未満の事前事後の学習状況であることから、日頃の学修の大切さの理解が求められる。

項目	人数		%	
	2年春期	元年秋期	2年春期	元年秋期
4時間以上	96	78	2.57	2.41
3～4時間未満	161	174	4.31	5.39
2～3時間未満	687	517	18.40	16.01
1～2時間未満	1,597	992	42.79	30.71
1時間未満	1,191	1,367	31.19	42.32

3. 「設問3 担当教員は、この授業の学習目的や必要性を十分に説明してくれましたか」

➡ 評価5、評価4の合計は77.35%(78.53%)と高い評価であることがわかった。しかし、評価3から評価1では845人、22.64%(693人、21.47%)であることから、教員は授業の学修目的等を説明することが求められる。

項目	人数		%	
	2年春期	元年秋期	2年春期	元年秋期
評価5	1,260	1,228	33.76	37.93
評価4	1,627	1,307	43.59	40.36
評価3	534	532	14.30	16.49
評価2	207	102	5.54	3.16
評価1	104	59	2.78	1.83

4. 「設問4 担当教員は、この授業の学習目的や必要性を十分に説明してくれましたか」
- ➡ 昨年度春期のアンケート結果では「学生の授業への取り組みや教員のさらなる指導が求められる」ことを提起（指摘）した。今期では、指摘した成果が顕著に現れ、高い割合の結果であった。評価5、評価4の合計は2,909人、77.94%（79.59%）で、今期も高い割合の結果であった。評価3から評価1では22.05%（20.41%）であることから、今後も継続して教員の丁寧な説明が必要とすることが望まれる。
5. 「設問5 担当教員は、学生からの質問やレポートなどの提出物に対して、よく対応（フィードバック）してくれましたか」
- ➡ 昨年度秋期の評価5、評価4の合計は78.50%と高い評価であった。春期に提起（指摘）した「学生の理解度を十分に把握した対応が望まれる」としたことは改善された。今期の評価5、評価4の合計は2,803人、75.10%で、高い割合を維持している。評価3から評価1では929人、24.89%（21.60%）であることから、学生からの質問や提出物のフィードバックを活かすことが望まれる。
6. 「設問6 担当教員は、この授業をシラバスの計画にそって行いましたか」
- ➡ 昨年度春期において「学生は、シラバスを利用した学修成果が求められる。」「教員は、シラバスを活用し、理解を深める努力することが望まれる。」の2項目を提起（指摘）した。その結果、昨年度秋期の評価5、評価4の合計は78.40%と高い結果であった。今期も評価5、評価4の合計は77.81%と高く推移しているので、この満足度の維持とシラバスに沿った授業展開に期待したい。
7. 「設問7 あなたは、この授業を、やる気を持ってまじめに受けることができましたか」
- ➡ 評価5、評価4の合計は2,779人、74.46%（2,492人、77.22%）と高い評価であった。昨年度同様、学生はまじめに授業に臨んでいる。しかし、評価3から評価1では953人、5.53%（735人22.78%）いることから、授業に臨む姿勢を改めることが望まれる。

8. 「設問8 あなたは、この授業を受けて、その内容に興味を持ち、学修したい気持ちが増しましたか」
 ➔ 評価3から評価1の合計は1,103人、29.55%（805人、24.95%）で、昨年度秋期よりも悪い結果となっているので学修意欲の改善が望まれる。

項目	人数			%		
	2年春期	元年秋期	差異	2年春期	元年秋期	差異
評価5	1,038	1,175	△137	27.81	36.41	△8.61
評価4	1,591	1,247	344	42.63	38.64	3.99
評価3	718	601	127	19.23	18.63	0.60
評価2	265	125	140	7.10	3.87	3.23
評価1	120	79	41	3.21	2.45	0.76

9. 「設問9 あなたは、この授業を受けて、新しい知識、技術、能力を得る事ができましたか」
 ➔ 評価5は1157人、31.00%（1,240人、38.43%）、評価4は1,727人、46.27%（1263人、39.14%）となっており、評価5と評価4の合計は2,884人、77.27%（2,503人、77.56%）で、昨年度秋期同様に良い結果となっている。なお、評価3の「どちらともいえない」と回答している学生が548人、14.68%（553人、17.14%）いることから、学生が自ら取り組む環境をつくることも必要と思われる。

10. 「設問10 あなたは、この授業に満足しましたか」
 ➔ 評価5と評価4の合計は75%で、昨年度秋期に比較し若干低い概ね良い結果となっている。評価3の「どちらともいえない」と回答した学生が15%いるので、今後の授業改善が求められる。

項目	人数			%		
	2年春期	元年秋期	差異	2年春期	元年秋期	差異
評価5	1,207	1,328	—	32.34	41.09	—
評価4	1,574	1,242		42.17	38.51	
計	2,781	2,570	211	75.51	79.68	4.17

評価3	585	494	91	15.67	15.31	0.36
-----	-----	-----	----	-------	-------	------

【分析と考察】

- ① 本アンケートは、コロナ禍の影響により、教学システム（ポータルサイト）による本学初の Web での実施となり、回答率の低下が懸念された。しかし、各科目オンライン授業終了直後に学生たちへ回答を促したこともあり、回答率 82.2%と昨年度のレベル（2019 年度秋期：82.6%、春期：78.8%）を維持することができ、次回以降の継続実施の見通しが立った。
- ② 本アンケートの調査対象科目は、全てオンライン授業であったため、学生たちの満足度の大幅な低下が予想されたが、設問 10「あなたは、この授業に満足しましたか。」の科目平均値は、5 点満点中、3.9 点であり、昨年度（2019 年度秋期：4.1 点、春期：4.1 点）と比べて 0.2 ポイントのダウンに止まった。これは、各科目担当教員の努力の結果として評価できると考える。
- ③ 前回（2019 年度秋期）まで、授業調査アンケートは紙ベースの回答用紙を使用し、各科目最終回授業後 20 分間程度で回答してもらっていた。しかし今回は、Web での実施となり、最終授業終了後も数日間回答できる期間を設けたためか、設問 11「自由記述」への回答率が前回 19.6%（全 3235 件中、635 件）から、今回 24.7%（全 3732 件中、922 件。）に向上した。
- ④ 本アンケートの対象となった 2020 年度春期開講科目の各担当教員に、個別科目分の集計結果についてのフィードバックのコメントをメールで依頼したところ、回答率は 74%（50 名中、37 名）であった。今回は本学の教務システム（ポータルサイト）の仕様上、各科目の担当教員が直接オンラインでアンケート結果を照会しつつのコメント入力ができなかったことも理由の一つと考えられる。

【総評】

春先から全国に蔓延した新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、多くの大学での授業は、これまでの対面による授業からリモート等による遠隔授業へと大きく様変わりした。

このような状況下ではあったが、教育の「質保証」を担保する見地から、また、学生の満足度を高めることを主眼にした実施であったが、結果として、昨年度秋期の授業調査アンケートと比較して良好であった。また、さほど大きな問題なく実施され、Web実施によるメリットが確認されたことに一定の評価ができる。

なお、設問3以降の設問において、前年度秋期と比較して3以下の評価が微増している傾向がみられるので、FD委員会等においてこの要因がZoomによるオンライン講義を実施したことに起因するものであるかどうかについて十分な検証する必要があると考える。

秋期授業への取り組みは、以下の事項を念頭にハイブリット授業（一部対面による授業の再開とリモートによる遠隔授業の併用）の実施に伴い、工夫を凝らし、学生が満足する授業を行い、この難局を乗り越えることを切に望みます。

【秋期授業への取り組み】

- ① 秋期は、ハイブリット授業実施に伴い「学生ファースト」である。
- ② 春期、学生に事前事後の学修を求めたが、今期のオンライン講義の実施に伴い各先生からの課題（宿題）が多く出されているので、学修方法等の検討を要する。
- ③ 学生の満足度を高める工夫をさらに行う。
- ④ 学生の積極的な授業参加を促す環境づくりをする。
- ⑤ 出欠の事前の確認と事後の確認をする。
- ⑥ 春期のアンケート実施実績を鑑み、秋期もポータルサイトによるWeb実施を予定。

以上